

群馬のグローバルチャレンジ：自然、伝統と現代社会

2022年群馬大学オンラインサマープログラム

募集要項

1. 目的

本プログラムは、本学交流協定校あるいは将来本学の協定校と成り得る機関（以下協定校等）に在籍する学部学生および大学院生を対象に、自然、伝統、地域生活習慣、カイク産業、科学という観点から、群馬の地域社会における様々な取り組みと現状について学ぶための短期集中コースです。日本社会や日本文化の理解を深め、あわせて群馬大学への関心を高めてもらふことを目的として実施するものです。

2. プログラム概要

日本のほぼ中央に位置する群馬県は豊かな自然環境と独自の産業に恵まれています。しかし、自然、生活習慣病、伝統文化と産業の伝承、地域過疎化などの問題に直面しており、これらは、現代日本社会が抱えている問題でもあります。そのため、本プログラムでは、群馬の社会、人、自然、文化についての多面的な知識を学び、体験することを通して、現代日本社会の抱える課題とその解決策を多国から集まる参加者と共に議論します。

コース：英語による日本事情コース

本プログラムは、日本事情英語講義、プロジェクトワーク、発表、学生交流活動を中心に実施します。また、日本人学生との交流の機会も用意しています。最終発表ではプロジェクトワークの成果を報告します。すべての活動（講義、プロジェクトワーク、最終発表、学生交流）に参加した学生にはプログラム修了証を発行します。

3. 参加方法

本コースは、ZOOM を用いた講義、ZOOM や Skype を用いた学生間の協働作業によって構成されます。

オンラインで実施するため上記のソフトウェアを使用できる環境が必要となります。

4. 参加資格・条件

- ◇ プログラム終了時まで群馬大学が指定する協定校等に在籍している学部学生又は大学院生
- ◇ 日本文化、現代社会、科学に興味、関心を持つ者（日本語の既習、未習を問わない）
- ◇ 英語による講義を理解でき、英語によるプロジェクトワークが遂行可能な者
- ◇ プログラムのすべての日程に参加できる者

5. 実施期間・定員・参加費

実施期間：2022年7月5日（火）から7月13日（水）まで（土日を除く）

定員：30名（5名以上で実施。原則として1大学5名までの応募とし、応募者が定員を大幅に超えた場合は、申し込み後に抽選による参加者を決定します。また、応募者が定員を下回る場合は、1大学6名以上の参加も受け入れます。6名以上の参加を希望する大学は、6名以降の応募者の優先順位を付けて応募してください。）

プログラム費：不徴収

6. プログラム日程

事前オリエンテーション: 2022年6月24日(金), 14:20-15:50 (日本時間)

	12:40-14:10	14:20-15:50	16:00-17:30	17:40-19:10
7月5日(火)		ウェルカムセッション(国際センター長田中先生)、ヴァーチャルキャンパスツアー	オリエンテーション: 講義内容とプロジェクトワークの説明	Icebreaking 質問を受け付ける、自由交流
7月6日(水)	日本事情1: 群馬にはなぜ糖尿病が多いのか(鯉淵典之教授)	日本事情2: カイコ: 日本と群馬におけるこれまでの歴史と将来の可能性(武田茂樹教授)	学生交流(English Cafe、群大生) 休憩10分	
7月7日(木)	日本事情3: 中之条ビエンナーレ2021(アーティスト 宮崎浩さん)	日本事情4: 日本の伝統演劇-群馬を超えて-(末松美知子教授)	プロジェクトワーク1 休憩10分	
7月8日(金)	日本事情5: 日本の温泉町と建築(陳雲運)	日本事情6: 群馬の温泉町と建築(陳雲運)	プロジェクトワーク2 休憩10分	
7月9日(土)	休み			
7月10日(日)	休み			
7月11日(月)	日本事情7: 群馬の自然と社会-一赤城山を中心に-(陳雲運)	プログラムのまとめ-日本の現代地域社会(陳雲運)	プロジェクトワーク3 休憩10分	
7月12日(火)	プロジェクトワーク4: 最終発表の準備	休憩10分	学生交流(Global Cafe、協定校学生) 休憩10分	
7月13日(水)	プロジェクトワーク5: 最終発表の確認	休憩	最終発表& Closing Message (国際副センター長 野田先生)	

- 1) プロジェクトワークは主にグループディスカッションの形で、毎日、受けていた講義の内容について議論し、内容、問題点および群馬社会に関する新たな認識についてレポートにまとめる。
- 2) 最終発表では、この一週間のプログラムを通して、群馬県のグローバルチャレンジや地域社会に関してどのような知見を得られたのかについてグループ発表を行う。プレゼンテーションはグループディスカッションとレポートの内容に基づく。

◆日本事情講義概要

タイトル 担当講師	授業概要
群馬にはなぜ糖尿病が多いのか 医学部 鯉淵典之 教授	糖尿病は、世界で最も一般的な生活習慣病の一つである。群馬には非常に豊かな自然と健康的な環境があるにもかかわらず、糖尿病患者数が他の地域よりもはるかに多い。普通、きれいな空気、水、自然は人々を健康にすると考える。しかし、群馬ではそうならない。本講義では、糖尿病をひきおこすメカニズムを簡単に説明し群馬に多くの糖尿病患者がいる理由の秘密を明らかにする。

<p>カイコ： 日本と群馬におけるこれまでの歴史と将来の可能性</p> <p>理工学府 武田茂樹 教授</p>	<p>カイコは昆虫の一種で蛹の段階で繭を作る。繭からは絹糸を作ることができる。日本は1900年代前半においては、世界一の絹生産国であった。また、21世紀になると、遺伝子組換えの技術により、新しい特徴をもった絹やさまざまな有用タンパク質を生産できるようになった。本講座では、カイコの特徴、群馬における絹の生産の歴史、遺伝子組換え技術のカイコへの応用、などについて紹介する。</p>
<p>地域活性化としての現代芸術祭—中之条ビエンナーレを例として—</p> <p>アーティスト：宮崎浩さん</p>	<p>日本の地方都市は少子高齢化や地域過疎化に直面している。この状況を改善するために、日本各地では、地域活性化を計るため、世界中のアーティストを招き、現代芸術祭を開催するようになっていく。群馬県の中の条ビエンナーレもその取り組みの一つである。本講義では、アーティストが中之条ビエンナーレの運営サポート、展示物の製作環境と過程、および芸術祭の実際の模様と地域社会にもたらした効果について説明する。</p>
<p>日本の伝統演劇 ～群馬を越えて～</p> <p>情報学部（社会情報学部） 末松美知子 教授</p>	<p>群馬県では江戸時代から農村で歌舞伎や人形芝居などの伝統演劇が盛んに上演され、その伝統が今も生きている。この講義では歌舞伎を取り上げ、群馬の庶民の娯楽としての村芝居から、群馬を越えた江戸の大歌舞伎、その進化系のスーパー歌舞伎、超歌舞伎などを取り上げ、歌舞伎と現代を生きる私たちの関係を探っていく。</p>
<p>日本の温泉町と建築 国際センター 陳雲蓮</p>	<p>日本の温泉に関して、これまで、源泉の成分や効力または湯治文化が注目されてきた。しかし、古くから、日本人は、温泉都市、温泉宿、異なる種類の入浴施設の設計に力を入れてきた。そこには、「水環境と都市・建築・人間」という大きなテーマが含まれている。本授業では、「温泉都市と建築」という観点から、道後、別府、熱海を実例として、多くの温泉資源を有する日本の温泉文化を探りたい。</p>
<p>群馬の温泉町と建築 国際センター 陳雲蓮</p>	<p>群馬県は豊かな温泉資源を有し、日本屈指の温泉県の一つである。その中で伊香保、草津、四万が有名な温泉地として知られる。それらの温泉地は標高の高い山の中に立地し、古くから湯治の地や温泉観光地である。本授業では、群馬県温泉地独自の歴史、民話、自然環境、および宿建築の変遷に伴う温泉利用のスタイルの変化について解説する。</p>
<p>群馬の自然と社会 —赤城山を中心に—</p> <p>国際センター 陳雲蓮</p>	<p>赤城山は群馬県の中央に位置し前橋市内から一望できる雄大な山である。今は、前橋市の都市景観の象徴やレジャースポットとして人気が高いが、赤城山をめぐる信仰はかつて群馬県の人々の生活様式や年中行事を形成させた。赤城山信仰は現代の群馬社会において薄れつつあるが、その名残や記憶がまだ多くの群馬の人々の心や生活習慣の中に残っている。本講義は、赤城山を中心とした群馬県の自然環境と人々の生活との関係について探求する。</p>

7. 応募方法等

応募方法：所属大学の担当窓口申請してください。所属大学の担当者がとりまとめて、群馬大学に申請書を提出します。

提出期限：2022年5月6日（金）。

なお、定員に達した場合、提出期限前に募集を締め切ります。

採用通知：採用者は、大学の協定校担当者に、群馬大学から2022年5月16日（月）までにお知らせします。

8. 群馬大学について

群馬大学は、東京の北西 100km に位置し、共同教育学部、情報学部(社会情報学部)、医学部、理工学部の各学部等から構成されています。現在、約 6,500 人の学生が在籍し、そのうち外国人留学生は約 250 人です。2019 年度は約 30 人が海外の協定校から半年間又は 1 年間留学しています。

9. 問い合わせ先

- ◇ (住 所) 〒371-8510 日本国群馬県前橋市荒牧町 4 - 2
群馬大学学務課国際課(学務、手続き) 福島健太 Mr. Kenta Fukushima
- ◇ (電 話) +81-27-220-7627 (FAX) +81-27-220-7630
(電子メール) g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp
(Web サイト) <http://www.guic.gunma-u.ac.jp/>